

## 令和4年度 第3回 上島小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和4年10月20日（木） 13時00分から15時00分
- 2 開催場所 上島小学校 会議室
- 3 出席委員 黒柳 寿一、青木 榮治、大橋 薫、小板 喜世子、山本 暢子  
池村 俊典、森園 大介、横山 美保
- 4 欠席委員 山崎 賜、安川 彰一
- 5 学校職員 山本 千興（校長）、佐山 淳一（教頭）、高橋 靖人（CS担当）
- 6 オブザーバー 浜松市曳馬協働センター所長 瀧 尚也
- 7 教育委員会 教育総務課 指導主事 鈴木 陽子
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項

- (1) 会長あいさつ
- (2) 校長あいさつ
- (3) 議長の選出 ※出席した委員の中から互選
- (4) 熟議内容

①「学校関係者評価(中間)の結果を受けて、地域・家庭としてできること」について

②「学校運営に必要な支援等」について

※「学校運営協議会自己評価<評価項目2>」の記入

※ 曳馬協働センター、教育総務課より

10 会議録 作成者 CSディレクター 清水 遥

### 11 会議記録

・司会から、委員総数10人の内8人の出席があり、過半数に達しているため会議が成立している旨の報告があった。

#### (1) 議長の選出について

・司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、青木委員から黒柳委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

#### (2) 会議内容について

①「学校関係者評価(中間)の結果を受けて、地域・家庭としてできること」について

・議長の指示により、CS担当の高橋から、別紙資料に基づき結果についての説明があり、委員からは以下の質問があった。

・子ども同士の間で人間づくり内の認め合う場とはどういうことか。また、自主性・主体的な行動は何を示しているのか。(池村委員)

→帰りの会等で良いこと見付けの発表をしたり、それに対応して学級・学年掲示を行ったりしている。(高橋)

→一例として学習の振り返り。児童が自分でPCに打ち込んだものをクラスのテレビに映し出し皆の意見を共有できる(佐山教頭)

→アイデアを実現させることで主体性をつける。(佐山教頭)

- ・認め合う場とは帰りの会に発表したりするのか。(山本委員)  
→発表したり、ポケットに入れて伝えたりしている。(高橋)
- ・タブレットとは何か。(青木委員)  
→児童一人に1台を割り当てて、学習で使用するタブレット型にもなるPC。(高橋)
- ・エンカウンター、ソーシャルスキルとは、どのようなものか。(森園委員)  
→相手の気持ちを想像できるゲーム性を取り入れた活動。教師側が人間関係作りを意図的に仕組む際に実施している。(高橋)
- ・どういった時に行うか(黒柳委員)  
→学級活動、朝の会など(佐山教頭)
- ・学校評価アンケート14番から12番につながる。教師が誉め、お互い、仲間から認めて相乗効果になる。このまま継続していけば人間関係の部分が高まる(森園委員)
- ・朝の挨拶は返ってくるが、校内だとあまり反応がない。挨拶運動をすれば良いのだろうか。その辺りの子どもたちの感覚が気になった。(黒柳委員)
- ・知らない人が多いからなのか小学生は素通りしてしまうことが多い。以前から、中学生の方が反応が良い。最近は、小学生も中学生も、挨拶が出来るようになったように思う。なぜ挨拶が必要なのか子どもたちが分かっているのか。挨拶によって心が温かくなる。原点の挨拶。(小板委員)
- ・今日、来校時に挨拶したら誰もしてくれなかった。近い小学校の曳馬小は逆に皆が挨拶してくれる。何が違うのか検証が必要。挨拶してくれるのは非常に良いこと。家庭での教育なのではないか。(池村委員)
- ・子どもたち自身は、挨拶が出来ていると思っているが実際には違うことを理解しているのか。また、大人と子どもの意識の差を子どもたちに伝えているのか。(黒柳委員)  
→3年前に比べたら朝の挨拶は返ってくるようになった。校内に来客が来た際は挨拶すること、廊下で挨拶することは良いことだと児童に伝えたい。(佐山教頭)
- ・かつて、上島小は全国レベルで挨拶が出来ていた。大人達が挨拶をしていれば子ども達も返してくれる。押しつけがましく言ってはダメ。挨拶するときの大人の心構えが必要。  
(青木委員)

## ②「学校運営に必要な支援等」について

- ・議長の指示により、森園委員から、学校支援活動について進捗状況・今後の活動の計画の説明があり、委員からは以下の発言があった。

### △(森園委員)

- ・校外学習を投げかけたのに、1・2年生ですでに実施されているのはなぜか。
- ・学校がやっていたら、今までと何も変わらない。
- ・情報共有が重要である。少しでも学校の負担を減らし、その分を子どもたちに関わってほしいと思っている。学校からの情報提供をもとに、先方との打合せも行いたい。

### ○(大橋委員)

- ・さくら連絡網で校外学習の引率のボランティアの依頼があった。ある保護者は、子どもの活動と一緒にできることを喜んでいて。
- ・先方との打ち合わせで、学校の意図を理解しないとコーディネートができないので、難しいと思う。今後、すり合わせるのかを検討する必要があるのでは。

★池村委員より曳馬小の取り組みを紹介。※資料提供あり

- ・学校からコーディネーターへ依頼の意図（何のために、どのような内容）を伝えることの重要性を感じている。
  - ・人選するために必要な情報がほしい。そのために、「支援依頼書」を作成した。
  - ・先方にも失礼になってしまう。せっかくやっていただくために、事前にきちんと把握したい。すり合わせが必要。
  - ・予算が必要な団体もある。年度初めに予算計画の作成も必要だと感じている。
  - ・学校とコーディネーターがしっかり打合せしないと、先方に迷惑を掛ける。
  - ・2校の取り組みの活動をうまくつなぎたい。
  - ・先方が「やってよかった」「また来たい」と思えるようにしたい。
- 
- ・一度、依頼書を作成すれば、その後が楽になるのでは。今後、必要に応じて人材バンクを今後作ってもよいのではないか。（黒柳委員）
  - ・ボランティアが必要な学年に支援依頼書の作成をお願いしたい。それをもとに、先方との具体的な打ち合わせを行いたい。（森園委員）
  - ・登下校の見守りについて。3校とも同じような課題がある。登下校時に、見守り隊だけでなく、地域の方にも協力を求めたい。登下校時に散歩するだけでも防犯になる。今後、自治連にもお願いしたい。（森園委員）
  - ・朝、ラジオ体操に行っている。終わったら、登校する子どもたちも見かける。ラジオ体操に参加している方にもお願いを呼びかけることも可能。（小坂委員）
  - ・朝の旗振りは大変。地域のみんなで見ていくことがいいのではないか。（黒柳委員）

<学校運営協議会 自己評価への記入> ※時間のため、記入内容の紹介は割愛。

曳馬協働センター 瀧 尚也様、教育総務課 鈴木 陽子様より

その他報告事項等

佐山教頭から、次回第4回会議は、令和5年2月10日（金）に開催する連絡があった。